

優秀賞

つながる夢

滋賀県 山本湧輝

昨年の初め、自転車店をしていた祖父が仕事中に心筋こうそくで倒れ、そのまま亡くなってしまった。僕や弟をととても可愛がってくれた祖父がある日突然いなくなり、心にぽっかりと穴が空いてしまったようだった。楽しみにしていた弟の小学校入学や僕の卒業も何も見ないで……。僕は今年中学生になり、気づけば祖父の死から1年半以上が過ぎていた。時は悲しみをうすくしていくけれど、僕はある部分で祖父とつながり近づいていると感じている。それは祖父の夢の上を僕が今精一杯走っているからだ。

小学2年でスポーツ少年団の野球に入るまで家の中ばかりで遊んでいた僕は足もおそく、入団当時一、二を争う下手さで、心配した家族は交代でキャッチボールをしてくれた。祖父も何度か僕の相手をしてくれたことがあったが、実は祖父は学生時代野球をしていて、プロ野球選手になりたかったが家業をつぐ為断念したのだそうだ。プロから声がかかる程よいピッチャーだった祖父は商工会で野球を続け良い結果を沢山残したそうだ。そんな祖父の遺伝子を受けつがず下手な僕を祖父はいつも笑顔で見守ってくれていた。

そして僕が小学最高学年になる年の初めに亡くなってしまった祖父は、その後僕がスポ少のチームで4番バッターになった事も、中学の軟式野球部で祖父と同じピッチャーになった事も知らない。

「おじいちゃんが生きていたら、今の湧輝を見たらどんなに喜ぶだろうね。」

と家族は言うけれど、僕は野球の白い球を投げる度、打つ度に、祖父とつながっていると感じる。祖父のなりたかったプロ野球選手になれるかは今の僕にはわからないが、今出来る事を精一杯がんばり、祖父と同じ夢の上を走り続けていきたい。その為に暑い夏も厳しい練習にも絶対負けないと思える力を、野球を始めたあの日の祖父の笑顔にもらった気がする。